

問題【社会】

江戸時代に関する以下の問いに答えなさい。

- ①享保の改革を行った江戸幕府8代将軍は誰ですか。
- ②①の人物が参勤交代を軽くする代わりに米を幕府に納めさせたことを何と言いますか。
- ③江戸中期ごろに青木昆陽の尽力などにより、救荒作物として普及した食べ物は何ですか。
- ④株仲間を奨励し、商工業を盛んにすることで財政を立て直そうとした老中は誰ですか。

豆知識 雑学コラム

儉約か、産業奨励か

江戸幕府は徳川綱吉以降、財政難に陥ります。この困難に江戸幕府はどうやって乗り切ろうとしたのか。様々な改革を行った4人のうち、今回は二人の人物をみていきましょう。

まずは享保の改革を行った8代目将軍の徳川吉宗です。「暴れん坊将軍」ってわかりますかね…？最後の殺陣のシーンがかっこよくて、小さいころ真似をしていました（年齢バレますね…笑）。話を戻しまして、吉宗が行った政策は上げ米の制などがあります。各大名は参勤交代によって江戸に1年間滞在していました。これによって大名に経済力を持たせない一面もありましたが、幕府の収入が増えるわけではありません。そこで吉宗は参勤交代を軽減する代わりに、米を幕府に納めさせることにしました。そうすることで幕府の収入を増やそうとしました。このほかにも公事方御定書の制定や飢饉にそなえて甘藷（さつまいも）の栽培を奨励しています。吉宗の政策によって一時的ではありますが、幕府の財政は持ち直しました。

次に登場するのは田沼意次です。意次と言えば、「わいろ」のイメージが強いかもしれませんね。意次が行った政策の一つに株仲間を奨励したことがあげられます。株仲間を作らせることで商工業者に特権をあたえ、営業税を取るといふものです。他にも長崎貿易の活性化、俵物の輸出拡大、銅の専売制の実施など、商工業を重視した政策が多いです。たしかにわいろが横行したり、政策が途中で頓挫するものが多いのは事実です。しかし、意次は年貢を中心とした財政ではなく、現在のように貨幣経済を浸透させようとしたのではないのでしょうか。

意次の後、立て直しを期待されて松平定信が老中になり寛政の改革を行いますが、儉約を厳しくしすぎたため、「白河の清きに魚も～」という田沼の時代を懐かしむ狂歌が流行ります。もしタイムスリップできるのなら、当時の人たちに田沼時代と松平時代はどちらがよかったのか聞いてみたいですね。

【解答】

- ① 徳川吉宗 ② 上げ米の制 ③ 甘藷 ④ 松平定信